

第 2 回函館市観光アドバイザー会議 要旨

第 2 回会議においては、来年度の新計画の検討に先立ち、函館市で実施している函館市観光基本計画策定調査業務の受託者である北海道二十一世紀総合研究所様より、中間報告をいただき、内容をご覧いただくとともに、ご意見ご質問をいただきました。

1 観光の現状と課題 (P1～P60)

1.1 函館観光の現状と評価 (P1～P28)

函館の観光の特徴を「観光資源」「宿泊」「交通」「受入体制」「誘客」の 5 項目で整理
「観光資源」～自然, 温泉, 歴史文化, 食, 体験
「宿 泊」
「交 通」
「受入体制」～観光推進組織, 人材・担い手, 市民意識
「誘 客」～修学旅行, MICE, ワークেশョン, イベント, 情報発信

1.2 全国, 全道, 道南, 函館の観光動向 (P29～P56)

主に観光統計データから全国, 全道, 道南, 函館の傾向を把握
函館市の観光動向については他都市との比較を通じた特徴の整理

【委員意見等】

- ・P49 イベント増加傾向は, 特にどのイベントが要因なのか分析(推測)があると良い。
- ・P50 訪日外国人宿泊数について, 台湾が減少傾向にあり回復していない要因の分析。
- ・P52 道内都市との比較であれば釧路, 旭川, P53 東北地方との比較では八戸を追加すると良い。
- ・P54 観光入込の金沢地域との比較について, 函館と金沢では商圈規模がかなり違う。他地域との比較については, 先々の何を指すのかという視点からの比較を。
- ・P55 札幌, 小樽との比較も色々な理由があり, 何かを導くのは困難。仮説を立てた評価を。
旭川市, 釧路市も比較対象に。
- ・ヒアリングは実際に受入でビジネスをしている方々の課題感も盛り込む方が良い。
- ・なぜこういったデータになっているのかを掘り下げ, 要因と思われるものの提案があると良い。

1.3 函館観光の問題点，課題の抽出（P57～P60）

マクロ（PEST 分析），ミクロ（3C 分析）より函館観光の問題点，課題，今後の取組の方向性を整理

（1）PEST 分析による検討（P57～P58）

観光産業に係る外部環境の変化がもたらす機会・脅威となる事象の整理

外部環境の区分：政治的要因，経済的要因，社会的要因，技術的要因

（2）3C 分析による検討（P59～P60）

函館の観光事業者の現状・課題および新しい取組み等を，コンテンツごとに分析
3C～市場（Customer），競合（Competitor），自社（Company）

※本節における分析では「自社」を「函館観光」と置き換える。

【委員意見等】※斜体は 21 世紀総研による受け答え

- ・ P59 魅力度ランキングについて，2022 年は順位を落としている要因は何か。
→仮説も含めて，数字の背景にあるものを取材したい。
- ・ 人手不足の現状が数値として見えると良い。函館ならではの状況などがあるか，他地域との違いなどがあるか明らかにしてもらえると今後の手立ての手掛かりとなる。
→人手不足は定量的に整理するのが難しい。定性的な話の中から，他地域の状況も踏まえ，函館市の状況について整理したい。ただ，人手不足は函館市の特徴と北海道全体で共通の要因があると予想している。
- ・ サステイナブルツーリズムについて，SDGs も含め，世界的な取り組みについて，道内外の実際の実例などの情報が欲しい。函館だけでなく大沼等の近隣も含めた検討を。
→サステイナブルツーリズムの実例は，マイクロツーリズム等も含めお示ししたい。欧米という観点ではサステイナブルツーリズムは欧米だけでなく世界的なトレンドとなり，マーケットが増えているため幅広く見ても良いと考えている。道東に比べ道南は差があるかもしれないが，ATで道東を訪れた方に道南も訪れていただくなど，色々な展開について検討したい。
- ・ 政治的要因について，地政学的な条件やリスクがある中で，どう観光を成長させていくのかというマクロ的な視点を盛り込んでもらいたい。
- ・ 円安の話がでていない。インバウンドの増加というプラスの要因がある一方で，原価の上昇など様々な影響が考えられる。今後の見通しを入れていただきたい。
- ・ 北海道新幹線延伸に伴う影響について，これまで影響を受けた地域の比較からどういった予測が成り立つか，仮説に基づいて展開を。
- ・ 社会的要因の「人との接触の少ない旅行への関心」について，当市における観光の魅力は人との接触が少ない方向へ，その前提ありきで良いのか。5～10 年を経てどう変わっていくのかを盛り込んでいただきたい。
→「人との接触の少ない旅行」に関しては，観光は色々な市場があるなかで一部。全体のトレンドという捉え方はしていないが，我々も気にしているところ。他の分析会社も色々な見方をしているようなので，それらの意見もレビューしたい。

2 函館観光の将来見通し (P61～P72)

2.1 観光市場の見通し (P61～P65)

(1) 観光市場の見通し (P 61～P 64)

①世界の観光市場見通し (P 61～P 63)

世界の人口、所得は増加しており、観光市場も拡大傾向をたどる。

地域別の観光市場規模の推移では、アジア・オセアニア地域の回復は遅れている。

※日本のインバウンドはアジア地域を中心に発展してきているため、回復が遅れる可能性。

②日本の観光市場見通し (P 64)

日本国内は人口減少と少子高齢化により旅行需要は減少傾向。

インバウンドは観光市場の拡大を背景に増加基調。

受入側の人手不足等により観光サービス提供に制約がかかる可能性。

(2) コロナ禍 アフターコロナにおける対応 (P 64)

①アフターコロナの調整局面 (P 64)

- ・人不足が顕著～人材の確保、DX 等による代替等、労働需給のバランスをとる必要。
- ・中長期的な観光人材の育成が重要な課題に。
- ・コロナ禍における財政出動はいずれ増税・歳出削減という形で調整、景気後退の可能性

②コロナ禍で生じたライフスタイルの変化への対応 (P 64)

- ・多様な働き方, DX 導入, ソーシャルディスタンス, AT 等アウトドア需要, SDGs

(3) 函館観光の見通し (P 65)

- ・国内における観光客獲得競争, 観光人材の確保競争の激化
- ・いかに人材や受入体制を早期に整えられるかが重要

2.2 函館をとりまく環境の変化の見通し (P66～P67)

(1) 函館市を取り巻く観光動向 (P66)

①観光資源の確認(P66)

a.観光資源の変化

- 2014年 朝市広場
- 2015年 函館アリーナ
- 2016年 北海道新幹線
- 2017年 バニラエア就航
- 2021年 北海道・北東北の縄文遺跡群がユネスコ世界文化遺産に登録
旧函館区公会堂の公開, 函館港若松ふ頭完成

②今後を見据えた観光動向の変化 (P67)

a.北海道新幹線の札幌延伸

観光客減少の懸念, 札幌ニセコ等からの日帰客の増加
札幌周辺, ニセコエリアの観光客に対する積極的なPR
函館を拠点とした道内観光の可能性

b.函館空港を活用した広域観光

道南・東北エリアのゲートウェイ
新幹線, クルーズ船と組み合わせた旅行スタイル, ニセコや東北との連携
LCC 就航など路線網の充実

c.市内の再開発事業

再開発やリノベーションによる函館観光の魅力の向上
函館駅市街地再開発, 湯の川地区都市再生整備計画など

2.3 函館観光の質的变化 (P68～P71)

(1) 函館市の目指す観光地の方向性 (P68～P69)

①ウィズコロナ・アフターコロナ (P68～P69)

a.人との接触を減らす観光スタイル

人との接触を減らす観光スタイルのニーズは今後も定着していく可能性がある。

b.長期滞在型の観光スタイル

「暮らすように旅をする」という観光スタイル
雇用形態の変化, テレワークやワーケーション

②歴史資源の保全と活用 (P70)

a.歴史的建造物の再生と活用

異国情緒漂う歴史的な街並みや美しい景観は「函館らしさ」の象徴
この街並みを形成する歴史的な建造物を再生・活用し, 後世に残すことが必要

b.コンテンツ作成と人材育成

函館の歴史的な資源を魅力的な観光コンテンツに結び付ける
歴史の語り部となる人材やインバウンド対応の人材育成

③世界遺産の活用 (P 71)

a.世界遺産を活用した函館観光の魅力アップ

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を函館観光の魅力アップに活用
教育旅行・体験観光などの集客につなげる
三内丸山遺跡などの東北との連携

b.日本旅行北海道との連携

④観光DX (P 71)

函館市を訪問する観光客の利便性や満足度の向上
観光関連事業者業務効率の向上

⑤誰もが楽しめる観光地

a.ユニバーサルツーリズム (P 71)

どのような人でも安心して気持ちよく楽しめる観光地
ユニバーサルな視点からの改善点の検討

b.外国人観光客

外国人観光客が楽しめる観光コンテンツ、案内人材の育成、利用しやすい公共交通など

2.4 函館観光の目標値の検討 (P72)

(1) 現在の目標値の見直し (P 72)

観光入込客数 (5,500 千人), 平均宿泊数(1.28 泊), 函館の印象 (とても良い 80%)
外国人宿泊数 (30 万人)

(2) 観光の質向上に関する目標値の検討 (P 72)

再来訪意向, 紹介意向, おもてなし度など

【委員意見等】 ※斜体は 21 世紀総研による受け答え

- ・旅行支援終了後、かなりの危機感を抱いている。インバウンドがカバーしてくれればと思っているが、国内需要が激減しているなか、回復の見込みについて示してほしい。リカバリーできる案や函館市として取り組めることがあれば。
- ・ワーケーションはニュースで見るインパクトと、実際の市場規模、実数が乖離している。数値として捉えると参考になるのでは。
- ・ワーケーションについてはプラン等を用意するも、売り上げには繋がっていない。今後についてもあまり期待できない。
- ・ワーケーションについては、調査の部分と予測の部分に分けた上で、「函館におけるワーケーションはこういう効果を生み出す」という、御社の知見を盛り込んだ客観的な意見をお聞かせいただきたい。

→ワーケーションの勤務体系の採用はごく一部。企業研修としては多い。多くは

「地域の課題を解決する目的をもってその地域に入る」。ワーケーションは目的ではなく「手段」。

- ・ P61 観光市場の見通しの中で、コロナ、ライフスタイルの変化とあるが具体的には。
→人の記憶や習慣として残る。人手不足の問題も、人材獲得について変化する。夜間帯にフロントに人がいない、ロボットの活用など事務的なものを節約するなど。DXの流れは必ずしもコロナに限ったことではないが、産業構造が変化すると考えている。
- ・ P65 基本認識について受入体制が整わない場合の手法、可能性を示してもらえないか。仮にそうなった時の函館の見通しは。
- ・ P66 観光資源の変化はもう少しセグメント分けを。空港内の新規店舗開店と新幹線開業はかなり異質なものではないか。
- ・ P68 ウィズコロナ・アフターコロナは、現在はマスト。今後どうなるかという大胆な予測をいただくと計画策定に役に立つ。
- ・ P69 の統計では感染対策が重視されている結果が出ているが、必ずしもそうではないのではないか。年代や属性毎など、もう少し踏み込んだ分析が必要。
- ・ P71 公共交通の使いにくさとは。
→二次交通については、地元の方にとっても距離感があるのかという印象。二次交通の問題として「乗りやすくするにはどうするか」というのは難しい問題だが、改善の余地がある。
- ・ 東部4地域への誘客を考えると、ドライブ自体を前面に押し出していくのも一つか。
- ・ 二次交通の問題は根が深いが、しっかりと載せてもらいたい。世界遺産も行きにくいのが問題となっている。
- ・ P72 「函館観光の目標値の検討」について、目標の切り口が様々あると良い。